



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第 19 号 2021 年 10 月発行



このプロジェクトは5年間（2017-2022）の JICA による技術協力プロジェクトで、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、サイヤブリー県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及び GAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. OA 市場における調査結果

首都ビエンチャンの ITECC（International Trading Exhibition and Convention Center）有機農業（OA）市場（毎週水曜・土曜の午前開設）にて、2021年9月4日、8日及び11日の3日間、消費動向の把握と OA 市場の強化を目的に、首都ビエンチャン農林局、サイセタ郡農林事務所及び OA 農家委員会のメンバーによるインタビュー形式での調査を行いました。今回は2018年8月-10月（雨季）、2021年2月（乾季）に続き3回目の調査で、180名（女性63%、男性37%）の消費者からの回答があり、その一部を紹介します。



（写真）消費者へのインタビューの様子

まず、OA 市場を利用する理由として「有機である」が1回目65%、2回目71%から87%へ最も増加し、「安全性」についても2回目34%から61%へ約2倍に増加しました。（表1. 参照）

表 1. OA 市場を利用する理由（複数回答ベスト3）

	2021/9	2021/2	2018/8-10
有機である	87%	71%	65%
安全性	61%	34%	設問なし
新鮮さ	61%	64%	7%

次に、OA 市場の価格設定については、1回目と比較し「やや高い」が10%減少し37%に、「適正」が9%増え58%でした。また、野菜等は雨季に高騰するものの、今回の調査からは季節間の価格に対する消費者意識に違いはみられませんでした。（表2. 参照）

表 2. OA 市場の価格

	2021/9	2021/2	2018/8-10
非常に高い	1%	5%	1%
やや高い	37%	35%	47%
適正	58%	59%	49%
安い	1%	1%	0%

この他では、この数年での消費者の OA 市場及び有機農産物に対する認識・評価の高まりが確認されました。一方、OA 市場の改善については、「駐車場の配置・管理 28%」、「ビニール袋削減 20%」、「値札の使用 13%」や「新型コロナ防止対策 12%」等の要望がありました。更に、OA 市場の PR 方法として、回答の5割を SNS（Facebook、YouTube）の活用が占めました。今後はこの調査結果も踏まえ、『OA 市場の強化』に向けた取り組みを進めてゆきます。



（写真）調査実施者による集合写真

2. 新型コロナウイルスの影響によるロックダウン期間中のプロジェクト活動について

ラオスの首都ビエンチャンでは、新型コロナウイルスの市中内感染が急増したこと受け、9月20日よりロックダウン措置が実施されております。そのため、一部の地域を除く JICA 関連の事業では在宅勤務を余儀なくされている状況にあり、政府カウンターパート機関も同様に在宅勤務やローテーション勤務に切り替わるなど、協働で活動を実施するには厳しい状況下にあります。

そんな中、本プロジェクトでは、“できる間にできる事を各々実施する”という観点に基づき、成果1・成果2・広報を担当する専門家が日々知恵を絞りながら業務を実施している状況です。

成果1の営農指導分野では、YouTubeチャンネルを用いてOrganic Agriculture (OA) Technical Manual (有機農業栽培技術マニュアル)を紹介しておりますが、在宅勤務が終了でき次第すぐに栽培現場で活動が再開できるよう、今後配信予定のOA Technical Manual用のパワーポイントを作り貯めしている状況です。

また成果2のビジネス振興分野では、有機野菜や果樹などの供給を担うOrganic Agriculture (OA) Marketにて市場調査を実施したり、終了時評価調査に向けた成果データの取得に向けて、調査計画を作成している状況です。

広報分野では、主に視覚効果の高い「動画を用いた広報」を展開しており、首都ビエンチャンのみならず、地方のプロジェクトサイトにおける有機栽培現場やマーケットについてFacebookを通じて紹介しており、こちらも今後の配信にむけて、動画の編集作業を継続している状況です。

今後、新型コロナウイルスの影響によるロックダウン措置がいつまで継続されるか分かりませんが、本プロジェクト一丸となって取り組んで参りますので、引き続き応援の程よろしくお願い致します。

3. Facebookによる動画配信

プロジェクトでは広報活動の一つとして、Facebookにより各種動画を配信しています。



(写真) 再生回数の多い残留農薬テストのPR動画

2021年10月22日現在、13種類のPR動画(ラオス語および英語)及び3種類の有機農業栽培技術マ

ニュアル動画(ラオス語)が閲覧できます。是非確認してみてください。

OA現場からの声

このコーナーでは、対象県で有機農業推進に尽力しているキーパーソンに焦点を当て、発信しています。今号はルアンパバーン郡ナーサオ村のシーパンドン・マニティ氏を取り上げます。



(写真) ナーサオ村のシーパンドン氏(一番右)と家族

ナーサオ村はルアンパバーンの有名な観光地であるクワンシー滝に行く途中にあります。バイクなら20分、車なら15分程度で訪問することが出来ます。シーパンドン氏の家族は2012年に有機農業に取り組み始めました。約0.3haの圃場でサイシン(チョイサム)、空心菜、レタス、ミント、レモングラス等多くの野菜を栽培しています。主な販売先は街中に開設されているOA市場です。それ以外にCOVID-19の影響を受ける前は、ルアンパバーンの街中にあるレストランやホテルに、外国人が好む野菜、例えばニンジン(約690円/kg)、レタスを(約460円/kg)といったように比較的高価に販売していました。

シーパンドン氏は、「消費者の多くは価格よりも自分の健康のことを考えて有機野菜を購入している」と言います。3~5月にかけて水が不足するため野菜栽培が出来なくなるという問題がありますが、近くにあるハトムギ工場からハトムギ殻燻炭を購入して土壌改善に使用する等の工夫も行っています。今後はアボガドやパイナップルといった果樹を増やしていきたいと考えています。

発行元: JICA クリーン農業開発プロジェクト

Clean Agriculture Development Project (CADP)

Email: cadp.lao.info2@gmail.com

Tel: +856-21 417 681



<https://www.facebook.com/jicaCADP/>

Homepage

<https://www.jica.go.jp/project/laos/026/index.html>

